

森林官からのおたより

静岡森林管理署 上井出森林事務所

森林官 千葉 賢史

富士山国有林12、418号は富士山の静岡県側、標高8000mから3、200mの間に扇状に広がっており、富士市・富士宮市・御殿場市・裾野市・小山市の4市1町に跨っています。

私の担当する上井出森林事務所はそのうちの富士宮市分をほぼ管轄し、富士山西側の山梨県境から南までの5、100号にわたっています。管内には日本最大級の土砂崩れとして知られている大沢崩れもあります。

私の朝一番の日課は、官舎の窓を開け、今日の富士山はどんな姿をしているのか、確認することです。毎日のこととは言え

その大きさにまず圧倒され、今日の仕事への思いに力が入ります。

また、夏は雲がよくかかるため朝は姿が見えないことも多いのですが、山仕事の途中や帰りの道すがら山頂だけぽっかりとみえたり、冬は山頂の雪が厚く積もり地形をなだらかにしていたのに、昼間の風に吹き飛ばされ夕方方には地肌が覗いていたり、季節・時間により見え方が全く違う



崩壊がつづく大沢崩れ

ため見飽きることはありません。

帰省等で富士宮を離れる時にも、行き帰りの車中とはより、出先の新聞やテレビでも富士山の姿を確認してしまいます。いつの間にか、富士山の姿を確認することが生活の一部になりました。

一般の方に、富士山で林業を行っていることや人工林が広がっていることとお話すると驚かれます。

実際には、標高1、600mあたりまでヒノキやモミ等の人工林が広がっており、間伐等を行い立派な山になるように手を入れています。

しかし現在、管内ではシカがヒノキやモミの樹皮を剥ぐ被害がよく目に付くようになりました。麓で追いやられたシカが上へ上へと国有林内に逃げてくるようで、その数はシカとあわない日がないほど増えています。

このままではいずれ長年育てた木が壊滅的な被害を受けるのではないかと危惧しています。そのため、幹に防除用のテープやネットを巻いたり、下刈りや除伐の仕方を工夫したりして樹皮剥ぎ対策をとっています。しかし、どの木が狙われるかなどわからないことも多く、効果的な防除法はないものと試行錯誤の毎日



列状間伐後の森林



植栽木を守る獣害対策

です。

日本一の山・富士山で働くことを誇りに思うとともに、私の仕事によって将来の姿が形作られていくと思うと、ますます責任の重さを痛感させられる今日この頃です。

富士山の森林官として1年が経ち、迷った時、わからない時には、親身になって相談できる先輩や基幹作業職員の支えがあったからこそ頑張ってきたと思います。世界文化遺産の暫定リストに登録されるなど、富士山の価値や注目度は今後益々上がっていくでしょう。

これからも支えとなる周りの皆さんと共に、また自分なりに勉強したことを発揮しながら、富士山の管理により一層努めていきたいと思えます。